

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員 高篠智・春原正隆			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
解剖学Ⅲ											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 長年にわたり、大学の法医学・解剖学教室で教鞭をとり、解剖資格を有する教員が、医療資格を取得するために具備していなければならない解剖学について講義を行う。											
〔到達目標〕 人体を構成する諸器官や組織の正常な形態・構成・機能などの基礎知識を理解する。 医療従事者として臨床の現場に出るにあたり必要な解剖学を理解し説明することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 解剖学 改訂2版					〔準備学習・時間外学習〕 基本的には1・2年生時に学習した内容となるため、必ず復習し授業に臨むことが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	人体解剖学概説					解剖学を学ぶ意義を理解する。 細胞、細胞内器官について説明ができる。					
2	人体解剖学概説					組織、上皮組織、支持組織、筋組織について説明ができる。 人体の発生、組織・器官の発生について説明ができる。					
3	脈管系					脈管系の概念・心臓の構造を理解し説明ができる。					
4	脈管系					動脈系について理解し各動脈について説明ができる。					
5	脈管系					動脈系について理解し各動脈について説明ができる。					
6	脈管系					動脈系について理解し各動脈について説明ができる。					
7	脈管系					静脈系について理解し各静脈について説明ができる。					
8	脈管系 確認テスト					リンパ系・胎児循環について理解し説明ができる。					
9	呼吸器					呼吸器系の概念・気道(鼻腔・咽頭)について理解し説明することができる。					
10	呼吸器					気道(喉頭・気管・気管支)について理解し説明することができる。					
11	呼吸器					肺の構造と呼吸のメカニズムについて理解し説明することができる。					
12	消化器					消化器系の概念・消化吸収のメカニズムについて理解し説明することができる。					
13	消化器					小腸・大腸の構造、その名称を理解し説明することができる。					
14	消化器					肝臓・膵臓の構造、その名称を理解し説明することができる。					
15	泌尿器 期末テスト					泌尿器系について理解し説明ができる。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	後期	担当教員 高篠智・春原正隆			
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
解剖学Ⅲ											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 長年にわたり、大学の法医学・解剖学教室で教鞭をとり、解剖資格を有する教員が、医療資格を取得するために具備していなければならない解剖学について講義を行う。											
〔到達目標〕 人体を構成する諸器官や組織の正常な形態・構成・機能などの基礎知識を理解する。 医療従事者として臨床の現場に出るにあたり必要な解剖学を理解し説明することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 解剖学 改訂2版					〔準備学習・時間外学習〕 基本的には1・2年生時に学習した内容となるため、必ず復習し授業に臨むことが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	生殖器					男性・女性生殖器について理解し説明ができる。					
2	感覚器					各部位の痛み、化膿性の炎症、褥瘡の類似症状について理解を深め判断力を身につける。					
3	内分泌系					内分泌系について理解し説明ができる。					
4	運動系(骨格系)					骨の構造・機能・役割などについて説明ができる。					
5	運動系(骨格系)					各骨の名称や骨の部位の名称を答えることができる。					
6	運動系(骨格系)					関節の構造と補助装置、頭頸部・体幹の関節について説明ができる。					
7	運動系(骨格系)					上肢・下肢の関節の構造について説明ができる。					
8	運動系(筋)					筋の種類と構造、筋収縮のメカニズムについて説明ができる。					
9	運動系(筋)					頭頸部・体幹の筋について起始・停止・作用について説明ができる。					
10	運動系(筋)					上肢の筋について起始・停止・作用について説明ができる。					
11	運動系(筋)					下肢の筋について起始・停止・作用について説明ができる。					
12	神経系					神経系について理解し説明ができる。					
13	神経系					中枢神経系について理解し説明ができる。					
14	神経系					末梢神経系について理解し説明することができる。					
15	神経系					自律神経について理解し説明することができる。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員 一宮頼子・熊澤真理子			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
生理学Ⅲ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 学会での論文発表の経験があり、長年にわたり大学や医療系専門学校での教育に貢献してきた教員が、柔道整復師として具備していなければならない生理学についての講義を行う。									
〔到達目標〕 人体を構成している組織・臓器・内部環境の恒常性維持・外部環境への適応などの機能やその仕組みについて理解する。									
〔使用教材、参考文献等〕 生理学 改訂3版			〔準備学習・時間外学習〕 人体の組織・器官の機能を学ぶ事は容易ではないため、各自での理解を深める学習が必要となる。						
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	生理学の基礎			個々の細胞内器官の機能を理解する。 人体の中で行われる物質の移動について理解する。					
2	血液の生理学			体液の区分、組成を理解する。 細胞内液と細胞外液の相違を理解する。					
3	血液の生理学			血液の役割を説明することができる。 赤血球、白血球、血小板の機能を説明できる。					
4	循環の生理学			心臓の構造と機能を理解する。 心臓のポンプ機能について理解し説明できる。					
5	循環の生理学			大循環、小循環について理解し説明できる。 各血管の構造と機能について理解する。					
6	循環の生理学			循環器系の著説機能について理解する。 リンパ管系について理解する。					
7	呼吸の生理学			呼吸器の構造と機能を関連付けて理解する。					
8	呼吸の生理学			換気の仕組み、ガス交換の仕組みを理解し説明できる。					
9	呼吸の生理学			呼吸運動の調節機能について理解する。 異常呼吸について理解する。					
10	消化と吸収			消化器系の構造と機能を理解する。 胃、腸管での消化と吸収について理解する。					
11	消化と吸収			消化器系の構造と機能を理解する。 消化管ホルモンの種類とその働きについて理解する。					
12	消化と吸収			消化器系の構造と機能を理解する。 肝臓の構造と機能について理解する。					
13	栄養と代謝			代謝について分類し説明ができる。					
14	栄養と代謝			代謝について分類し説明ができる。					
15	期末試験			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	後期	担当教員 一宮頼子・熊澤真理子			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
生理学Ⅲ											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 学会での論文発表の経験があり、長年にわたり大学や医療系専門学校での教育に貢献してきた教員が、柔道整復師として具備していなければならない生理学についての講義を行う。											
〔到達目標〕 人体を構成している組織・臓器・内部環境の恒常性維持・外部環境への適応などの機能やその仕組みについて理解する。											
〔使用教材、参考文献等〕 生理学 改訂3版					〔準備学習・時間外学習〕 人体の組織・器官の機能を学ぶ事は容易ではないため、各自での理解を深める学習が必要となる。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	尿の生成と排泄					腎臓の構造と機能を理解する。					
2	尿の生成と排泄					各部位の痛み、化膿性の炎症、褥瘡の類似症状について理解を深め判断力を身につける。					
3	尿の生成と排泄					排尿の仕組みを理解する。					
4	内分泌系の機能					内分泌ならびにホルモンの種類を理解し機能を説明できる。					
5	内分泌系の機能					各種ホルモンの機能と調節の仕組みについて理解する。					
6	内分泌系の機能					各種ホルモンの機能と調節の仕組みについて理解する。					
7	生殖器					男性生殖器について理解する。					
8	生殖器					女性生殖器について理解する。					
9	骨の生理学					カルシウム代謝に関与するホルモンについて理解する。					
10	神経の機能					神経細胞の形態について理解する。 ニューロンの機能、シナプス伝達の仕組みについて理解する。					
11	神経の機能					神経系を機能的に分類し説明できる。 中枢神経と末梢神経とを区別する。体性神経と自律神経とを区別する。					
12	神経の機能					脊髄と反射について理解する。					
13	神経の機能					中枢神経(脳)の各部位の構造と機能を理解する。					
14	感覚の生理学					感覚の種類を理解する。 感覚の伝導路について理解する。					
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
柔道整復術適応											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
柔道整復師が医療現場で活動するうえで、他の医療職種とのチームアプローチをする際に必要となる医学的知識を総合的に教授する。											
〔到達目標〕											
医師、看護師、リハビリテーション三職種等との臨床医学分野の専門家と充分に連携できるよう知識を深める。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
医療の中の柔道整復					前もって、既修の「一般臨床医学」「外科学概論」「整形外科学」等の知識を前提として授業を行う。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	柔道整復術の適否					救急医療や急性外傷、スポーツ障害での柔道整復術の役割と他職種との連携について説明できる。					
2	損傷に類似した症状を示す疾患(1)					内臓疾患による胸痛・腹痛を伴う疾患について説明できる。					
3	損傷に類似した症状を示す疾患(2)					骨・関節の炎症疾患・軟部組織の圧迫損傷について説明できる。					
4	血流障害を伴う損傷					骨折・脱臼に伴う血流障害について説明できる。					
5	末梢神経損傷を伴う損傷					骨折・脱臼に伴う末梢神経損傷について説明できる。					
6	脱臼骨折					観血的治療が必要となる脱臼骨折について説明できる。					
7	外出血を伴う損傷					観血的治療が必要となる開放性骨折について説明できる。					
8	確認テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	病的骨折及び脱臼					疾患による骨折・脱臼について説明できる。					
10	意識障害を伴う損傷					骨折を伴う意識障害、骨折を伴わない意識障害について説明できる。					
11	脊髄症状のある損傷					脊椎損傷を伴う脊髄症と脊椎損傷を伴わない脊髄症について説明できる。					
12	呼吸運動障害を伴う損傷					胸部外傷による呼吸障害を説明できる。					
13	内臓損傷の合併が疑われる損傷					骨折・脱臼に伴う内臓損傷を説明できる。					
14	高エネルギー外傷					高エネルギー外傷についての全身管理について説明できる。					
15	期末テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は記述式筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。					授業中に自筆のノートを取り、重要事項については復習すること。テストは自筆で作成したノートの参照を可としての記述式試験とする。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	集中講座			
								時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
関係法規											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
接骨院の管理者として、保険請求を行っていた柔道整復師専科教員が、柔道整復師に関係の深い法規について講義形式で授業を行う。半期を通して、関係法規の領域を理解する。											
〔到達目標〕											
柔道整復師として具備していなければならない法律について理解し説明できるようになる。 柔道整復師を取り巻く環境、社会保障制度等を理解し、柔道整復師の業務・使命について理解を深める。											
〔使用教材、参考文献等〕 関係法規(医師薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 法律について難しい言語が多くでてくるので予習して授業に望むこと。覚える事が多いので、言葉の内容を理解して暗記することが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	Ⅰ 序論					法の意義及び概略を理解する。					
2	Ⅲ 関係法規 医師法、歯科医師法					医師法の概要が説明できる。 医師と柔道整復師との関係を説明できる。					
3	Ⅱ 柔道整復師法とその関連内容 第1章 総則、第2章 免許					柔道整復師法の目的を理解する。 柔道整復師の定義が説明できる。					
4	Ⅲ 関係法規 その他医療資格					様々な医療資格について説明できる。					
5	Ⅱ 柔道整復師法とその関連法 第3章 柔道整復師国家試験					国家試験の内容・実施方法を理解する。 国家試験受験資格について理解する。					
6	Ⅲ 関係法規 医療法					医療法の概要について説明できる。 医療制度について理解する。					
7	Ⅱ 柔道整復師法とその関連法 第4章 業務					柔道整復師の業務を説明できる。 施術の制限について説明できる。					
8	Ⅲ 関係法規 医療法					医療制度上柔道整復師の位置づけが説明できる。					
9	Ⅱ 柔道整復師法とその関連法 第5章 施術所					施術所の開設、構造設備基準、各種申請について理解し説明できる。					
10	Ⅲ 関係法規 社会福祉関係法規					社会福祉法の概要が説明できる。 業務遂行に当たり社会福祉の意義が説明できる。					
11	Ⅱ 柔道整復師法とその関連法 第6章 雑則					柔道整復師に関連する罰則を理解し、詳細に説明できる。					
12	Ⅲ 関係法規 社会保険関係法規					社会保険法について概要が説明できる。 業務遂行に当たり社会保険について説明ができる。					
13	Ⅱ 柔道整復師法とその関連法 第7章 罰則、指定登録機関及び指定試験機関					柔道整復師に関連する罰則と指定登録機関について理解し、詳細に説明できる。					
14	Ⅲ 関係法規 その他の関係法規					様々な医療資格について説明できる。					
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数
柔道Ⅱ										15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

全柔連Aライセンス指導員を持つ柔道整復師専科教員が、柔道実技の授業の中で柔道の礼法及び精力善用、自他共栄の精神を教授する。

柔道整復術のルーツである柔道を通して、柔道整復師の資格を理解し、社会に役立てる人間形成を行う。

相手の人格を尊重し受身や形をしっかり覚え、基本動作を身に付ける。

〔到達目標〕

柔道の基本(礼法、受身、形、技)を習得し、昇段審査にて全員が初段を取ることを目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕		〔準備学習・時間外学習〕	
DVD		日々心身の鍛錬に励み、外傷のないように準備する。 授業外の柔道の自習は監督職員がいる場合のみ許可する。	

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	授業ルール確認と授業の流れの説明 受身と形 準備体操と受身・形の技術確認を行う	礼法を各場面に応じて正しく行えるようになる。 受身が正しく行えるようになる。
2	形：浮落と背負投の解説実演と全体練習 技の打込を行う	浮落、背負投を理解し安全に正しく実践できるようになる。
3	浮腰と払腰の解説実演と全体練習 技の打込を行う。	浮腰と払腰を理解し安全に正しく実践できるようになる。
4	送足払と支釣込足の解説実演と全体練習 技の打込を行う。	送足払と支釣込足を理解し安全に正しく実践できるようになる。
5	釣込腰・内股の解説実演と全体練習 技の約束練習(動く)	釣込腰・内股を理解し安全に正しく実践できるようになる。
6	肩車の解説実演と全体練習 技の約束練習(動く)	肩車を理解し安全に正しく実践できるようになる。
7	まとめ 試験立ち回りの練習	投技(手技、足技、腰技)各3種を連続的に演舞できるようになる。
8	中間テスト 試験方式(形：基本6本のみ)	テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。
9	全体練習(試験方式) 基本動作の確認(すり足、組み方等)	各場面に応じた正しい礼法ができる。 柔道競技のルールを正しく理解する。
10	全体練習(試験方式) 紅白帯を使用して導線確認	基本技を中心とした乱取りができる。
11	全体練習(試験方式) 認定実技試験のポイント説明	乱取りの中で正しく投げ、正しく受身ができるようになる。
12	全体練習(試験方式) 認定実技形式3組同時進行	各種の技を用い、安全に柔道ができる。
13	全体練習(試験方式) 認定実技形式3組同時進行	抑え技の種類をあげ理解し説明できるようになる。 抑え技の形を体得する。
14	全体練習(試験方式) 認定実技形式3組同時進行	抑え技を変えた乱取りを安全に行うことができるようになる。 投げ技から抑え技に連続的に移行できるようになる。
15	期末試験	テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。

〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。	〔特記事項〕
---	--------

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
臨床柔道整復学Ⅳ											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師専科教員免許を取得した教員が柔道整復術習得について講義形式で授業を行う。 講義の授業では、上肢の骨折について学ぶ。											
〔到達目標〕 上肢の骨折について臨床で必要となる知識の習得を図る。											
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 改訂 7版					〔準備学習・時間外学習〕 事前にシラバスを確認し、予習して授業に参加すること。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	鎖骨骨折①					臨床で必要な鎖骨骨折に関する知識を理解する。					
2	鎖骨骨折②					臨床で必要な鎖骨骨折に関する知識を理解する。					
3	肩甲骨骨折					臨床で必要な肩甲骨骨折に関する知識を理解する。					
4	上腕骨近位部骨折①					臨床で必要な上腕骨近位部骨折に関する知識を理解する。					
5	上腕骨近位部骨折②					臨床で必要な上腕骨近位部骨折に関する知識を理解する。					
6	上腕骨遠位部骨折①					臨床で必要な上腕骨遠位部骨折に関する知識を理解する。					
7	上腕骨遠位部骨折②					臨床で必要な上腕骨遠位部骨折に関する知識を理解する。					
8	確認テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	確認テスト振り返り 解答解説					確認テストの振り返り、理解度を深める。					
10	前腕近位部骨折①					臨床で必要な前腕骨近位部骨折に関する知識を理解する。					
11	前腕近位部骨折②					臨床で必要な前腕骨近位部骨折に関する知識を理解する。					
12	前腕骨骨幹部骨折①					臨床で必要な前腕骨骨幹部骨折に関する知識を理解する。					
13	前腕骨骨幹部骨折②					臨床で必要な前腕骨骨幹部骨折に関する知識を理解する。					
14	復習					復習し理解度を深める。					
15	期末テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	西川 晃子		
臨床柔道整復学Ⅳ								時間数(単位)	30(2)	授業回数
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師専科教員免許を取得した教員が柔道整復術習得について講義形式で授業を行う。 講義の授業では、上肢の骨折について学ぶ。										
〔到達目標〕 上肢の骨折について臨床で必要となる知識の習得を図る。										
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 改訂 7版					〔準備学習・時間外学習〕 事前にシラバスを確認し、予習して授業に参加すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	手根部の骨折①					舟状骨骨折、三角骨骨折について理解を深める。				
2	手根部の骨折②					各部位の痛み、化膿性の炎症、褥瘡の類似症状について理解を深め判断力を身につける。				
3	中手骨部の骨折①					中手骨骨頭部骨折、中手骨頸部骨折について理解を深める。				
4	中手骨部の骨折②					中手骨骨幹部骨折、第1中手骨基部骨折、第5中手基部骨折について理解を深める。				
5	中手骨部の骨折③					中手骨部の骨折について振り返る。				
6	指骨の骨折①					基節骨骨折、中節骨骨折、末節骨骨折について理解を深める。				
7	指骨の骨折②					マレットフィンガーについて理解を深める。				
8	確認テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	確認テスト振り返り 解答解説					確認テストを振り返り、理解度を深める。				
10	まとめ① 鎖骨部から上腕遠位部の骨折					まとめを行い、さらに理解度を深める。				
11	まとめ② 鎖骨部から上腕遠位部の骨折					まとめを行い、さらに理解度を深める。				
12	まとめ③ 前腕近位から指骨骨折					まとめを行い、さらに理解度を深める。				
13	まとめ④ 前腕近位から指骨骨折					まとめを行い、さらに理解度を深める。				
14	復習					復習し理解度を深める。				
15	期末テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	瑞泉 誠	
臨床柔道整復学Ⅵ									30(2)	授業回数
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、1年間を通じて全ての柔道整復術の領域を理解させ、応用力を養う。										
〔到達目標〕 下肢の骨折について臨床で必要となる知識の習得を図る。										
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 第7版					〔準備学習・時間外学習〕 柔道整復理論を事前に復習し臨むこと					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	骨盤骨骨折①					臨床で必要となる骨盤骨骨折の知識を習得する。				
2	骨盤骨骨折②					各部位の痛み、化膿性の炎症、褥瘡の類似症状について理解を深め判断力を身につける。				
3	大腿骨近位部骨折①					臨床で必要となる大腿骨近位部骨折の知識を習得する。				
4	大腿骨近位部骨折②					臨床で必要となる大腿骨近位部骨折の知識を習得する。				
5	大腿骨骨幹部骨折①					臨床で必要となる大腿骨骨幹部骨折の知識を習得する。				
6	大腿骨骨幹部骨折②					臨床で必要となる大腿骨骨幹部骨折の知識を習得する。				
7	膝蓋骨骨折					臨床で必要となる膝蓋骨骨折の知識を習得する。				
8	下腿骨骨幹部骨折①					臨床で必要となる下腿骨骨幹部骨折の知識を習得する。				
9	下腿骨骨幹部骨折②					臨床で必要となる下腿骨骨幹部骨折の知識を習得する。				
10	下腿骨遠位部骨折①					臨床で必要となる下腿骨遠位部骨折の知識を習得する。				
11	下腿骨遠位部骨折②					臨床で必要となる下腿骨遠位部骨折の知識を習得する。				
12	足根骨部の骨折					臨床で必要となる足根骨部骨折の知識を習得する。				
13	足根骨の骨折					臨床で必要となる足根骨骨折の知識を習得する。				
14	中足骨の骨折					臨床で必要となる中足骨骨折の知識を習得する。				
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員 黒澤 紀雄			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
臨床柔道整復学Ⅴ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 接骨院にて怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要な脱臼についての知識を教授する。解剖学的な構造を理解したうえで発生機序を理解する。ただ単に症状や治療法を暗記するのではなく、なぜそのような症状がでるのか、なぜそのように治療するのかを解剖学や運動学といった学問を基に論理的に考えさせ、臨床の現場でも対応できるような知識の習得を目指した授業とする。									
〔到達目標〕 各脱臼について臨床で必要となる知識の習得を図る。									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編(第7版) 柔道整復学・実技編					〔準備学習・時間外学習〕 シラバスを確認し、事前に柔道整復学・理論編で予習すること。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	関節の構造・機能、関節損傷の復習、脱臼総論				関節の構造・機能について理解する。				
2	脱臼総論 分類、病的脱臼、症状、合併症				脱臼の分類、固有症状、合併症を理解する。				
3	鎖骨の脱臼① 胸鎖関節脱臼				鎖骨周辺の構造を理解し、胸鎖関節脱臼について理解する。。				
4	鎖骨の脱臼② 肩鎖関節脱臼				鎖骨周辺の構造を理解し、肩鎖関節脱臼について理解する。				
5	肩関節脱臼① 肩関節の機能解剖、分類				肩関節周辺の構造を理解し、肩関節脱臼の分類について理解する。				
6	肩関節脱臼② 症状、合併症、治療法				肩関節脱臼の症状・合併症・治療法について理解する。				
7	肘関節脱臼① 肘関節の機能解剖、分類				肘関節周辺の構造を理解し、肘関節脱臼の分類について理解する。				
8	肘関節脱臼② 症状、合併症、治療法				肘関節脱臼の症状・合併症・治療法について理解する。				
9	手関節脱臼① 手関節の機能解剖、分類				手関節周辺の構造を理解し、手関節脱臼の分類について理解する。				
10	手関節脱臼② 症状、合併症、治療法				手関節脱臼の症状・合併症・治療法について理解する。				
11	手根骨脱臼① 手根部の機能解剖、分類				手根部周辺の構造を理解し、手根骨脱臼の分類について理解する。				
12	手根骨脱臼② 症状、合併症、治療法				手根骨脱臼の症状・合併症・治療法について理解する。				
13	手指部の脱臼① 手指部の機能解剖、分類				手指部の構造を理解し、手根骨脱臼の分類について理解する。				
14	手指部の脱臼② 症状、合併症、治療法				手指部の脱臼の症状・合併症・治療法について理解する。				
15	期末試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	黒澤 紀雄		
臨床柔道整復学Ⅴ								時間数(単位)	30(2)	授業回数
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) スポーツ現場と接骨院で勤務し、多くの症例経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復学の授業を行う。授業は講義形式で実施し、半期を通じて柔道整復学についてさらに理解を深める。										
〔到達目標〕 軟部組織損傷について臨床で必要となる知識の習得を図る。										
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 第7版					〔準備学習・時間外学習〕 事前にシラバスを確認し、予習して授業に参加すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	頸部の軟部組織損傷①					外傷性頸部症候群、胸郭出口症候群、寝違えについて理解し説明できる。				
2	頸部の軟部組織損傷②					各部位の痛み、化膿性の炎症、褥瘡の類似症状について理解を深め判断力を身につける。				
3	胸・背部の軟部組織損傷					胸肋関節損傷、肋間筋損傷、胸・背部打撲傷について理解し説明できる。				
4	腰部の軟部組織損傷					関節性、靱帯性、筋・筋膜性について理解し説明できる。				
5	肩関節部の軟部組織損傷					腱板断裂、上腕二頭筋長頭腱損傷について理解し説明できる。				
6	上腕部の軟部組織損傷					橈骨神経損傷、尺骨神経損傷について理解し説明できる。				
7	肘関節部の軟部組織損傷					野球肘、テニス肘について理解し説明できる。				
8	前腕部の軟部組織損傷					前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群について理解し説明できる。				
9	手関節部と指部の軟部組織損傷					TFCC損傷、ドケルバン病、キーンベック病、マーデルング変形について理解し説明できる。				
10	股関節の軟部組織損傷①					鼠径部痛症候群、股関節唇損傷について理解し説明できる。				
11	股関節の軟部組織損傷②					弾発股と梨状筋症候群について理解し説明できる。				
12	大腿部の軟部組織損傷①					大腿部打撲、大腿部の肉ばなれについて理解し説明できる。				
13	膝関節部の軟部組織損傷②					半月板損傷、靱帯損傷、腸脛靱帯炎、鵞足炎等を理解し説明できる。				
14	足関節の軟部組織損傷					足関節捻挫について理解し説明できる。				
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員 瑞泉 誠			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
臨床柔道整復学Ⅵ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、1年間を通じて全ての柔道整復術の領域を理解させ、応用力を養う。									
〔到達目標〕 下肢の骨折について臨床で必要となる知識の習得を図る。									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 改訂第7版				〔準備学習・時間外学習〕 事前にシラバスで内容を確認し予習すること					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	骨盤部の損傷 骨盤部の解剖と機能・骨盤骨骨折			骨盤骨部の解剖と機能について理解を深める。					
2	骨盤骨骨折・骨盤輪骨折			分類・概説・治療法・合併症について理解を深める。					
3	股関節部の損傷 解剖と機能・大腿骨近位部の骨折			大腿骨部の解剖と機能について理解を深める。					
4	大腿骨近位部の骨折			骨折部位による分類、概説、症状、治療法を理解する。					
5	股関節脱臼			後方脱臼、前方脱臼、中心性脱臼について理解を深める。					
6	股関節部の軟部組織損傷			鼠径部痛症候群について理解を深める。					
7	股関節部の軟部組織損傷			弾発股、梨状筋症候群、その他の疾患について理解を深める。					
8	大腿部の損傷 機能と解剖・大腿骨骨幹部骨折			大腿部の解剖と機能について理解を深める。					
9	大腿部の軟部組織損傷			大腿部打撲、大腿部肉ばなれについて理解を深める。					
10	膝関節部の損傷 機能と解剖・大腿骨遠位端部骨折			膝関節部の解剖と機能について理解を深める。 大腿骨遠位端部骨折について理解を深める。					
11	下腿骨近位端部骨折			概説・発生機序・症状・整復法・後遺症について理解を深める。					
12	膝関節脱臼・膝蓋骨脱臼			概説・発生機序・症状・整復法・後遺症について理解を深める。					
13	膝関節部の軟部組織損傷			半月板損傷、靱帯損傷、発育期の膝関節障害について理解を深める。					
14	膝関節部の軟部組織損傷			腸脛靱帯炎、鵞足炎、膝蓋大腿関節障害について理解を深める。					
15	期末テスト			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	瑞泉 誠		15
臨床柔道整復学Ⅵ									30 (2)	授業回数	
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、1年間を通じて全ての柔道整復術の領域を理解させ、応用力を養う。											
〔到達目標〕 下肢の骨折について臨床で必要となる知識の習得を図る。											
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 第7版					〔準備学習・時間外学習〕 柔道整復理論を事前に復習し臨むこと						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	骨盤骨骨折①					臨床で必要となる骨盤骨骨折の知識を習得する。					
2	骨盤骨骨折②					各部位の痛み、化膿性の炎症、褥瘡の類似症状について理解を深め判断力を身につける。					
3	大腿骨近位部骨折①					臨床で必要となる大腿骨近位部骨折の知識を習得する。					
4	大腿骨近位部骨折②					臨床で必要となる大腿骨近位部骨折の知識を習得する。					
5	大腿骨骨幹部骨折①					臨床で必要となる大腿骨骨幹部骨折の知識を習得する。					
6	大腿骨骨幹部骨折②					臨床で必要となる大腿骨骨幹部骨折の知識を習得する。					
7	膝蓋骨骨折					臨床で必要となる膝蓋骨骨折の知識を習得する。					
8	下腿骨骨幹部骨折①					臨床で必要となる下腿骨骨幹部骨折の知識を習得する。					
9	下腿骨骨幹部骨折②					臨床で必要となる下腿骨骨幹部骨折の知識を習得する。					
10	下腿骨遠位部骨折①					臨床で必要となる下腿骨遠位部骨折の知識を習得する。					
11	下腿骨遠位部骨折②					臨床で必要となる下腿骨遠位部骨折の知識を習得する。					
12	足根骨部の骨折					臨床で必要となる足根骨部骨折の知識を習得する。					
13	足根骨の骨折					臨床で必要となる足根骨骨折の知識を習得する。					
14	中足骨の骨折					臨床で必要となる中足骨骨折の知識を習得する。					
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	集中講座		
								時間数(単位)	30(2)	授業回数
臨床柔道整復学Ⅶ										
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 長年、整形外科で勤務し、多くの外傷治療経験を持つ教員が柔道整復術について講義形式の授業を行う。										
〔到達目標〕 軟部組織損傷について臨床で必要となる知識の習得を図る。										
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 改訂 7版 柔道整復学・実技編					〔準備学習・時間外学習〕 理論の教科書で外傷について勉強して臨むと理解が深まる。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション					臨床に必要な知識を習得するための準備をする。				
2	股関節部の軟部組織損傷①					臨床に必要な股関節部の軟部組織損傷に関する知識を理解する。				
3	股関節部の軟部組織損傷②					臨床に必要な股関節部の軟部組織損傷に関する知識を理解する。				
4	大腿部の軟部組織損傷①					臨床に必要な大腿部の軟部組織損傷に関する知識を理解する。				
5	大腿部の軟部組織損傷②					臨床に必要な大腿部の軟部組織損傷に関する知識を理解する。				
6	復習					復習し理解度を深める。				
7	中間試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
8	中間テスト振り返り 解答解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	膝関節部の軟部組織損傷①					臨床に必要な膝関節部の軟部組織損傷に関する知識を理解する。				
10	膝関節部の軟部組織損傷②					臨床に必要な膝関節部の軟部組織損傷に関する知識を理解する。				
11	下腿部の軟部組織損傷①					臨床に必要な下腿部の軟部組織損傷に関する知識を理解する。				
12	下腿部の軟部組織損傷②					臨床に必要な下腿部の軟部組織損傷に関する知識を理解する。				
13	足関節部の軟部組織損傷					臨床に必要な足関節部の軟部組織損傷に関する知識を理解する。				
14	復習					復習し理解度を深める。				
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名								大野 智子			
臨床柔道整復学Ⅶ				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
接骨院にて怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要な軟部組織損傷についての知識を教授する。解剖学的な構造を理解したうえで発生機序を理解する。ただ単に症状や治療法を暗記するのではなく、なぜそのような症状がでるのか、なぜそのように治療するのかを解剖学や運動学といった学問を基に論理的に考えさせ、臨床の現場でも対応できるような知識の習得を目指した授業とする。											
〔到達目標〕											
各脱臼について臨床で必要となる知識の習得を図る。											
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学 理論編(第7版)					〔準備学習・時間外学習〕						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	股関節脱臼① 股関節部の機能解剖・分類					股関節部の機能解剖・分類について理解する。					
2	股関節脱臼② 症状・合併症・治療法					各部位の痛み、化膿性の炎症、褥瘡の類似症状について理解を深め判断力を身につける。					
3	膝関節脱臼① 膝関節部の機能解剖・分類					膝関節部の機能解剖・分類について理解する。					
4	膝関節脱臼② 症状・合併症・治療法					膝関節脱臼の症状・合併症・治療法について理解する。					
5	足関節脱臼① 足関節部の機能解剖・分類					足関節部の機能解剖・分類について理解する。					
6	足関節脱臼② 症状・合併症・治療法					足関節脱臼の症状・合併症・治療法について理解する。					
7	足根部の脱臼① 足根部の機能解剖・分類					足根部の機能解剖・分類について理解する。					
8	足根部の脱臼② 症状・合併症・治療法					足根骨脱臼の症状・合併症・治療法について理解する。					
9	足趾の脱臼① 足趾部の機能解剖・分類					足趾部の機能解剖・分類について理解する。					
10	足趾の脱臼② 症状・合併症・治療法					足趾部脱臼の症状・合併症・治療法について理解する。					
11	顎関節脱臼 分類・症状・治療法					顎関節脱臼の分類・症状・治療法について理解する。					
12	頸椎の脱臼 分類・症状・治療法					頸椎脱臼の分類・症状・治療法について理解する。					
13	胸椎の脱臼 分類・症状・治療法					胸椎脱臼の分類・症状・治療法につじて理解する。					
14	腰椎の脱臼 分類・症状・治療法					腰椎脱臼の分類・症状・治療法について理解する。					
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員 集中講座			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	演習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
柔道整復演習Ⅰ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 接骨院での臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、臨床実習に望む前段階として、患者との良好な信頼関係を構築するための技術を教授する。									
〔到達目標〕 各脱臼の症状を把握し、診察から整復・固定さらには指導管理まで柔道整復師になる者として、必須の技術さらには素養を確実に身につける。									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 改訂 7版 柔道整復学・実技編			〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をすること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。						
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	肩関節脱臼①			肩関節脱臼の診察と整復を理解する。					
2	肩関節脱臼②			肩関節脱臼の固定と指導管理を理解する。					
3	復習			肩部脱臼の診察、整復、固定、指導管理の振り返り					
4	前腕両骨脱臼①			前腕両骨脱臼の診察と整復を理解する。					
5	前腕両骨脱臼②			前腕両骨脱臼の固定と指導管理を理解する。					
6	復習			肘部脱臼の診察、整復、固定、指導管理の振り返り					
7	中間試験			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
8	肘内障①			肘内障の診察と整復を理解する。					
9	肘内障②			肘内障の固定と指導管理を理解する。					
10	手関節部の脱臼①			月状骨脱臼の診察と整復を理解する。					
11	手関節部の脱臼②			月状骨脱臼の固定と指導管理を理解する。					
12	手指脱臼①			月状骨周囲脱臼の診察と整復を理解する。					
13	手指脱臼②			月状骨周囲脱臼の固定と指導管理を理解する。					
14	復習			手部と肘部脱臼の診察、整復、固定、指導管理の振り返り					
15	期末試験			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	後期	担当教員 集中講座			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	演習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
柔道整復演習Ⅰ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 接骨院での臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、臨床実習に望む前段階として、患者との良好な信頼関係を構築するための技術を教授する。									
〔到達目標〕 各脱臼の症状を把握し、診察から整復・固定さらには指導管理まで柔道整復師になる者として、必須の技術さらには素養を確実に身につける。									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 改訂 6版 柔道整復学・実技編					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をすること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	股関節脱臼①				股関節脱臼の診察と整復を理解する。				
2	股関節脱臼②				股関節脱臼の固定と指導管理を理解する。				
3	復習				股関節脱臼の診察、整復、固定、指導管理の振り返り				
4	膝蓋骨脱臼①				膝蓋骨脱臼の診察と整復を理解する。				
5	膝蓋骨脱臼②				膝蓋骨脱臼の固定と指導管理を理解する。				
6	復習				膝蓋骨脱臼の診察、整復、固定、指導管理の振り返り				
7	足関節脱臼①				足関節脱臼の診察と整復を理解する。				
8	足関節脱臼②				足関節脱臼の固定と指導管理を理解する。				
9	足根骨脱臼①				足根骨脱臼の診察と整復を理解する。				
10	足根骨脱臼②				足根骨脱臼の固定と指導管理を理解する。				
11	足趾の脱臼①				足趾脱臼の診察と整復を理解する。				
12	足趾の脱臼②				足趾脱臼の固定と指導管理を理解する。				
13	復習				足部脱臼の診察、整復、固定、指導管理の振り返り				
14	まとめ				下肢脱臼のまとめ				
15	期末試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	集中	担当教員			
授業科目名 柔道整復演習Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	演習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
		集中講座							
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 接骨院での臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、臨床実習に望む前段階として、患者との良好な信頼関係を構築するための技術を教授する。									
〔到達目標〕 臨床上、大切な実技を身につけ、卒業後の職場研修に役立つ知識・技術を会得する。									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 改訂 7版 柔道整復学・実技編					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をすること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	医療面接①				問診の仕方について理解を深める。				
2	医療面接②(上肢)				上肢疾患の問診のポイントを知る。				
3	医療面接③(上肢)				上肢疾患の問診のポイントを知る。				
4	医療面接④(下肢)				下肢疾患の問診のポイントを知る。				
5	医療面接⑤(下肢)				下肢疾患の問診のポイントを知る。				
6	関節可動域測定①(上肢)				上肢の関節可動域の測定を習得する。				
7	中間試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
8	関節可動域測定②(上肢)				上肢の関節可動域の測定を習得する。				
9	関節可動域測定①(下肢)				下肢の関節可動域の測定を習得する。				
10	関節可動域測定②(下肢)				下肢の関節可動域の測定を習得する。				
11	徒手検査法①(上肢)				上肢の徒手検査法を習得する。				
12	徒手検査法②(上肢)				上肢の徒手検査法を習得する。				
13	徒手検査法①(下肢)				下肢の徒手検査法を習得する。				
14	徒手検査法②(下肢)				下肢の徒手検査法を習得する。				
15	期末試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	集中	担当教員			
授業科目名 柔道整復演習Ⅲ		必修/選択	必修	授業形態	演習	集中講座			
						時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 接骨院での臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、臨床実習に望む前段階として、患者との良好な信頼関係を構築するための技術を教授する。									
〔到達目標〕 医療面接、問診ができるようになる。 臨床の現場に来院するであろう様々な疾患について、柔道整復師として必要な各種検査法や鑑別診断が行えるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 改訂 7版 柔道整復学・実技編					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をすること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション			臨床現場で役立つ技術を習得するにあたり準備について理解する。					
2	医療面接と疾患の判断①			模擬患者の評価から疾患の判断まで適切に行える。					
3	医療面接と疾患の判断②			模擬患者の評価から疾患の判断まで適切に行える。					
4	医療面接と疾患の判断③			模擬患者の評価から疾患の判断まで適切に行える。					
5	医療面接と疾患の判断④			模擬患者の評価から疾患の判断まで適切に行える。					
6	復習			医療面接と判断の内容を復習する。					
7	中間試験			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
8	上肢の徒手検査法及び鑑別診断①			徒手検査法及び鑑別診断を適切に行える。					
9	上肢の徒手検査法及び鑑別診断②			徒手検査法及び鑑別診断を適切に行える。					
10	下肢の徒手検査法及び鑑別診断①			徒手検査法及び鑑別診断を適切に行える。					
11	下肢の徒手検査法及び鑑別診断②			徒手検査法及び鑑別診断を適切に行える。					
12	ロールプレイ①			これまでの内容を通じてロールプレイを行う。					
13	ロールプレイ②			これまでの内容を通じてロールプレイを行う。					
14	ロールプレイ③			これまでの内容を通じてロールプレイを行う。					
15	期末試験			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数
柔道整復術適応の臨床的判定										15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師として、スポーツ選手や怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復術について講義による授業を行う。										
〔到達目標〕 安全に柔道整復術を提供するため、臨床所見から判断して施術に適する損傷と、適さない損傷を的確に判断できる能力を身につける。										
〔使用教材、参考文献等〕 施術の適応と医用画像の理解					〔準備学習・時間外学習〕 柔道整復理論の教科書を復習して授業に臨むこと。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	柔道整復術の適否を考える					適応を判断する手順を理解し判断できるようになる。				
2	損傷に類似した症状を示す疾患					各部位の痛み、化膿性の炎症、褥瘡の類似症状について理解を深め判断力を身につける。				
3	血流障害を伴う損傷					阻血の5Pについて理解し判断力を身につける。				
4	末梢神経損傷を伴う損傷					各部の神経損傷について理解し判断力を身につける。				
5	脱臼骨折					肩関節、肘関節、股関節、足関節の脱臼骨折について理解を深め判断力を身につける。				
6	外出血を伴う損傷					開放性の骨折や脱臼、皮膚損傷を理解し、判断力を身につける。				
7	病的骨折及び脱臼					病的な骨折や脱臼を理解し判断力を身につける。				
8	意識障害を伴う損傷					Japan Coma Scale(JCS)について理解を深める。				
9	中間試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
10	脊髄症状のある損傷					脊髄損傷を理解し判断力を身につける。				
11	呼吸運動障害を伴う損傷					異常呼吸がみられる疾患について理解し判断力を身につける。				
12	内臓損傷の合併が疑われる損傷					外傷に伴う内臓損傷の合併で起こる症状を理解し判断力を身につける。				
13	高エネルギー外傷					高エネルギー外傷で起こる多臓器損傷について理解し判断力を身につける。				
14	医用画像の理解					X線、CT、MRI、超音波画像装置について理解し、判断力を身につける。				
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
柔道整復実技Ⅳ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 接骨院を開業し、トレーニング指導やリハビリテーションの経験を持つ柔道整復師専科教員が臨床で求められる固定実技の授業を行う。									
〔到達目標〕 認定実技試験に向けて、時間内に確実に固定ができるようにする。									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編					〔準備学習・時間外学習〕 実技の習得には理論教科書での学習と実技の練習が必要となる				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション								
2	バスケットウィーブ固定、Xサポートテープ固定、フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定				時間内での固定ができる。				
3	鎖骨骨折固定				時間内での固定ができる。				
4	コーレス骨折固定(クラーメル副子と局所副子・三角巾)				時間内での固定ができる。				
5	上腕骨骨幹部骨折(ミッテルドルフ三角副子)				時間内での固定ができる。				
6	肩鎖関節上方脱臼(テープ固定)				時間内での固定ができる。				
7	肩関節前方脱臼(局所副子固定・三角巾)				時間内での固定ができる。				
8	肘関節後方脱臼(クラーメル副子・三角巾)				時間内での固定ができる。				
9	中間試験				時間内での固定ができる。				
10	第5中手骨頸部骨折 手第2指PIP関節背側脱臼				時間内での固定ができる。				
11	下腿骨骨幹部骨折 アキレス腱断裂				時間内での固定ができる。				
12	肋骨骨折(さらしと厚紙副子)				時間内での固定ができる。				
13	足関節外側靱帯損傷(局所副子)				時間内での固定ができる。				
14	期末試験Ⅰ				時間内での固定ができる。				
15	期末試験Ⅱ				時間内での固定ができる。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						伊藤 新			
柔道整復実技Ⅵ		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 接骨院・整形外科での臨床現場と、大学で柔道整復師の育成のために教鞭をとり、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導、柔道整復師育成に尽力してきた柔道整復師専科教員が、全身の代表的な骨折における柔道整復術(整復・固定)について指導する。 1・2年次に学習した各骨折を復習することによって、さらに骨折について理解を深める。									
〔到達目標〕 各骨折に応じた治療を計画し、実践できるようになる。 各骨折に適した整復・固定を正しく安全に行うことができる。									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復学・実技編					〔準備学習・時間外学習〕 実技授業を行うにあたり、事前に理論の教科書で外傷について理解しておくこと				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	上肢骨折 鎖骨骨折・肩甲骨骨折				鎖骨骨折の各種整復法・固定法を実践できるようになる。				
2	上肢骨折 上腕骨近位端部骨折、上腕骨骨幹部骨折				外科頸骨折の内転型、外転型の各整復法・固定法の違いを理解し、実践できるようになる。				
3	上肢骨折(上腕骨骨幹部骨折・上腕骨遠位部骨折) 小テスト				上腕骨顆上骨折の伸展型、屈曲型の各整復法・固定法の違いを理解し、実践できるようになる。				
4	上肢骨折 上腕骨遠位部骨折・前腕骨近位部骨折				上腕骨顆上骨折の伸展型、屈曲型の各整復法・固定法の違いを理解し、実践できるようになる。				
5	上肢骨折 前腕骨骨幹部骨折				前腕骨骨折(モンテギア骨折、ガレアッジ骨折)について理解し、整復・固定が実践できるようになる。				
6	上肢骨折(前腕骨遠位端部骨折) 小テスト				コーレス骨折の整復法・固定法を正しく理解し、実践できるようになる。				
7	上肢骨折 手根骨骨折・指骨骨折				舟状骨骨折、各手指の骨折の整復法・固定法を理解し、実践できるようになる。				
8	中間試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	下肢骨折 骨盤骨骨折・大腿骨近位端部骨折				大腿骨頸部骨折について理解し、整復法・固定法を理解し、実践できるようになる。				
10	下肢骨折 大腿骨近位端部骨折・大腿骨骨幹部骨折				大腿骨頸部骨折、骨幹部骨折について理解し、整復法・固定法を理解し、実践できるようになる。				
11	下肢骨折(大腿骨遠位端部骨折・膝蓋骨骨折) 小テスト				膝蓋骨骨折について理解し、整復法・固定法を実践できるようになる。				
12	下肢骨折 下腿骨近位端部骨折・下腿骨遠位端部骨折				足関節部の骨折について理解し、各骨折型に応じた整復・固定が実践できるようになる。				
13	下肢骨折 下腿骨遠位端部骨折・足根骨骨折・足指骨折				足部の骨折について理解し、各骨折に応じた整復法・固定法が実践できる。				
14	頭部骨折 小テスト				頭部の骨折について理解し、柔道整復師として対応できる事を理解し、実践できるようになる。				
15	期末試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	大野 智子		
								時間数(単位)	30(1)	授業回数
柔道整復実技Ⅳ										
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
整形外科で勤務し、トレーニング指導やリハビリテーションの経験を持つ柔道整復師専科教員が主要脱臼に対して実技授業を行う。										
〔到達目標〕										
臨床上、大切な軟部組織損傷の実技を理解し、卒業後の職場研修に役立つ知識・技術や様々な検査法を習得する。										
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕					
柔道整復学・理論編 改訂6版 柔道整復学・実技編 改訂2版					実技の習得には理論教科書での学習と実技の練習が必要となる					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	膝関節損傷(十字靱帯損傷)の診察及び検査法					十字靱帯損傷の各種検査を正しく実施し評価できる。				
2	膝関節損傷(十字靱帯損傷)の診察及び検査法					各部位の痛み、化膿性の炎症、褥瘡の類似症状について理解を深め判断力を身につける。				
3	膝関節損傷(半月板損傷)の診察及び検査法					半月板損傷の各種検査を正しく実施し評価できる。				
4	下腿三頭筋損傷の診察及び検査法					下腿三頭筋損傷の各種検査を正しく実施し評価できる。				
5	下腿三頭筋損傷の診察及び検査法					下腿三頭筋損傷の各種検査を正しく実施し評価できる。				
6	足関節外側靱帯損傷の診察及び検査法					足関節捻挫の各種検査を正しく実施し評価できる。				
7	足関節外側靱帯損傷の診察及び検査法					足関節捻挫の各種検査を正しく実施し評価できる。				
8	中間試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	膝関節内側側副靱帯損傷(Xサポートテープ固定)					膝関節のXサポートテープ固定を適切かつ迅速に行うことができる。				
10	膝関節内側側副靱帯損傷(Xサポートテープ固定)					膝関節のXサポートテープ固定を適切かつ迅速に行うことができる。				
11	足関節外側靱帯損傷(バスケットウェーブ固定)					足関節のバスケットウェーブ固定を適切かつ迅速に行うことができる。				
12	足関節外側靱帯損傷(バスケットウェーブ固定)					足関節のバスケットウェーブ固定を適切かつ迅速に行うことができる。				
13	足関節外側靱帯損傷(フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定)					足関節のフィギュアエイト・ヒールロックテープ固定を適切かつ迅速に行うことができる。				
14	足関節外側靱帯損傷(フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定)					足関節のフィギュアエイト・ヒールロックテープ固定を適切かつ迅速に行うことができる。				
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数
柔道整復実技Ⅴ										15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 理学療法士および柔道整復師の資格を持ち、整形外科、病院の臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、骨折と下肢軟部組織損傷について柔道整復術の実技授業を行う。 後半では特に上肢下肢の代表的な軟部組織損傷について臨床で必要となる様々な検査法を習得する。										
〔到達目標〕 臨床で実践できる柔道整復術を身に付ける。										
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編					〔準備学習・時間外学習〕 事前にシラバスを確認し、予習して授業に参加すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	鎖骨骨折(整復)					骨折の有無の判定と臥位整復法、坐位整復法を正しく操作できる。				
2	鎖骨骨折(固定)					固定時の注意点を挙げ説明できる。デゾー包帯法、セイヤー絆創膏固定法を正しく行うことができる。				
3	上腕骨外科頸外転型骨折(整復)					外転型、内転型の相違が説明でき、各々に応じた整復法ができる。				
4	上腕骨外科頸外転型骨折(固定)					外転型、内転型の固定法の違いが説明でき、それを実践できる				
5	コーレス骨折(整復)					骨折の所見と骨片転位の特徴が説明でき、正しく整復操作を行える。				
6	コーレス骨折(固定)					骨折固定用の金属副子の作成ができ、作成した副子で正しく固定を行える。				
7	まとめ					鎖骨、外科頸、コーレス骨折について臨床で耐え得る整復法、固定法を実践することができる。				
8	中間試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	肩腱板損傷					腱板損傷の所見が説明でき、各検査法と鑑別診断が正しく行うことができる。				
10	上腕二頭筋損傷					上腕二頭筋長頭腱損傷の所見が説明でき、各検査法と鑑別診断が正しく行うことができる。				
11	大腿部損傷(四頭筋損傷)					大腿四頭筋損傷の所見が説明でき、各検査法と鑑別診断が正しく行うことができる。				
12	膝関節損傷(側副靱帯損傷)					膝関節の側副靱帯損傷の所見が説明でき、各検査法と鑑別診断が正しく行うことができる。				
13	膝関節損傷(十字靱帯損傷)					膝関節の十字靱帯損傷の所見が説明でき、各検査法と鑑別診断が正しく行うことができる。				
14	膝関節損傷(半月板損傷)					膝関節の半月板損傷の所見が説明でき、各検査法と鑑別診断が正しく行うことができる。				
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	実技	泉澤 勝		
柔道整復実技Ⅴ								時間数 (単位)	30 (1)	授業回数
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
理学療法士および柔道整復師の資格を持ち、整形外科、病院の臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、リハビリテーション医学の観点から柔道整復実技を行う。授業は実技形式で半期を通じ理解を深める。										
〔到達目標〕										
包括的に外傷について学び、卒業後に臨床に対応する力を身に付ける。										
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復理論 改訂6版					〔準備学習・時間外学習〕 柔道整復理論について予習復習が必要となります。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	柔道整復実技 関節可動域測定① (外傷に対する機能評価)					関節可動域の測定を正しく行い、外傷による機能低下状態を知り、機能改善の経過を観察することができる。				
2	柔道整復実技 関節可動域測定② (外傷に対する機能評価)					各部位の痛み、化膿性の炎症、褥瘡の類似症状について理解を深め判断力を身につける。				
3	柔道整復実技 筋力測定① (外傷に対する機能評価)					筋力測定を正しく行い、外傷による機能低下状態を知り、機能改善の経過を観察することができる。				
4	柔道整復実技 筋力測定② (外傷に対する機能評価)					筋力測定を正しく行い、外傷による機能低下状態を知り、機能改善の経過を観察することができる。				
5	柔道整復実技 身体測定① (外傷に対する機能評価)					身体計測を正しく行い、外傷による機能低下状態を知り、機能改善の経過を観察することができる。				
6	柔道整復実技 運動体操① (外傷後の後療法)					各種運動体操を学び、外傷後の後療法に応用することができる。				
7	柔道整復実技 運動体操② (外傷後の後療法)					各種運動体操を学び、外傷後の後療法に応用することができる。				
8	柔道整復実技 装具① (外傷後の後療法)					上肢の装具について理解し、外傷に対して応用できる。				
9	柔道整復実技 装具② (外傷の治療)					下肢の装具について理解し、外傷に対して応用できる。				
10	柔道整復実技 装具③ (外傷の治療)					体幹の装具について理解し、外傷に対して応用できる。				
11	柔道整復実技 移動補助具① (外傷の治療)					移動補助具(松葉杖等)について理解し、外傷に対して応用できる。				
12	柔道整復実技 移動補助具② (外傷の治療)					移動補助具(車いす等)について理解し、外傷に対して応用できる。				
13	柔道整復実技 脊髄損傷について (外傷の治療)					脊髄損傷について学ぶ。				
14	柔道整復実技 脊髄損傷の評価について (外傷の治療)					脊髄損傷の評価について学ぶ。				
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						伊藤 新			
柔道整復実技Ⅵ		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 接骨院・整形外科での臨床現場と、大学で柔道整復師の育成のために教鞭をとり、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導、柔道整復師育成に尽力してきた柔道整復師専科教員が、全身の代表的な骨折における柔道整復術(整復・固定)について指導する。 1・2年次に学習した各骨折を復習することによって、さらに骨折について理解を深める。									
〔到達目標〕 各骨折に応じた治療を計画し、実践できるようになる。 各骨折に適した整復・固定を正しく安全に行うことができる。									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 改訂第6版 柔道整復学・実技編					〔準備学習・時間外学習〕 実技授業を行うにあたり、事前に理論の教科書で外傷について理解しておくこと				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	上肢骨折 鎖骨骨折・肩甲骨骨折				鎖骨骨折の各種整復法・固定法を実践できるようになる。				
2	上肢骨折 上腕骨近位端部骨折、上腕骨骨幹部骨折				外科頸骨折の内転型、外転型の各整復法・固定法の違いを理解し、実践できるようになる。				
3	上肢骨折(上腕骨骨幹部骨折・上腕骨遠位部骨折) 小テスト				上腕骨顆上骨折の伸展型、屈曲型の各整復法・固定法の違いを理解し、実践できるようになる。				
4	上肢骨折 上腕骨遠位部骨折・前腕骨近位部骨折				上腕骨顆上骨折の伸展型、屈曲型の各整復法・固定法の違いを理解し、実践できるようになる。				
5	上肢骨折 前腕骨骨幹部骨折				前腕骨骨折(モンテギア骨折、ガレアッジ骨折)について理解し、整復・固定が実践できるようになる。				
6	上肢骨折(前腕骨遠位端部骨折) 小テスト				コーレス骨折の整復法・固定法を正しく理解し、実践できるようになる。				
7	上肢骨折 手根骨骨折・指骨骨折				舟状骨骨折、各手指の骨折の整復法・固定法を理解し、実践できるようになる。				
8	中間試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	下肢骨折 骨盤骨骨折・大腿骨近位端部骨折				大腿骨頸部骨折について理解し、整復法・固定法を理解し、実践できるようになる。				
10	下肢骨折 大腿骨近位端部骨折・大腿骨骨幹部骨折				大腿骨頸部骨折、骨幹部骨折について理解し、整復法・固定法を理解し、実践できるようになる。				
11	下肢骨折(大腿骨遠位端部骨折・膝蓋骨骨折) 小テスト				膝蓋骨骨折について理解し、整復法・固定法を実践できるようになる。				
12	下肢骨折 下腿骨近位端部骨折・下腿骨遠位端部骨折				足関節部の骨折について理解し、各骨折型に応じた整復・固定が実践できるようになる。				
13	下肢骨折 下腿骨遠位端部骨折・足根骨骨折・足指骨折				足部の骨折について理解し、各骨折に応じた整復法・固定法が実践できる。				
14	頭部骨折 小テスト				頭部の骨折について理解し、柔道整復師として対応できる事を理解し、実践できるようになる。				
15	期末試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数
柔道整復実技Ⅵ										15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
接骨院・整形外科での臨床現場と、大学で柔道整復師の育成のために教鞭をとり、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導、柔道整復師育成に尽力してきた柔道整復師専科教員が、全身の代表的な骨折における柔道整復術(整復・固定)について指導する。1・2年次に学習した各骨折を復習することによって、さらに骨折について理解を深める。										
〔到達目標〕										
各骨折に応じた治療を計画し、実践できるようになる。 各骨折に適した整復・固定を正しく安全に行うことができる。										
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕					
柔道整復学・理論編 第7版					事前に柔道整復学を予習し臨むこと。授業後必ず復習すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	骨盤骨骨折①					骨盤骨骨折における治療計画及び実践を習得する。				
2	骨盤骨骨折②					各部位の痛み、化膿性の炎症、褥瘡の類似症状について理解を深め判断力を身につける。				
3	大腿骨近位部骨折①					大腿骨近位部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
4	大腿骨近位部骨折②					大腿骨近位部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
5	大腿骨骨幹部骨折①					大腿骨骨幹部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
6	大腿骨骨幹部骨折②					大腿骨骨幹部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
7	膝蓋骨骨折					膝蓋骨における治療計画及び実践を習得する。				
8	下腿骨骨幹部骨折①					下腿骨骨幹部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
9	下腿骨骨幹部骨折②					下腿骨骨幹部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
10	下腿骨遠位部骨折①					下腿骨遠位部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
11	下腿骨遠位部骨折②					下腿骨遠位部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
12	足根骨部の骨折					足根骨部の骨折における治療計画及び実践を習得する。				
13	足根骨の骨折					足根骨の骨折における治療計画及び実践を習得する。				
14	中足骨の骨折					中足骨の骨折における治療計画及び実践を習得する。				
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕					〔特記事項〕					
評価は実技試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。										

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	集中講座		
								時間数(単位)	30(1)	授業回数
柔道整復実技Ⅶ										
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 接骨院や整形外科での臨床経験がある柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要となる柔道整復術について実技授業を行う。グループによるロールプレイングを繰り返し行う形式で進める。										
〔到達目標〕 最終学年として、就職後に即戦力となれるよう必要な知識・技術を身につける。										
〔使用教材、参考文献等〕 ・柔道整復学・理論編 改訂7版 ・柔道整復学・実技編 改訂2版					〔準備学習・時間外学習〕 理論の教科書を事前に読み込み実技に臨むと理解が深まる。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	実技指導 全般					模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
2	実技指導 全般					模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
3	実技指導 全般					模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
4	実技指導 全般					模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
5	実技指導 全般					模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
6	実技指導 全般					模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
7	中間試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
8	実技指導 全般					模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
9	施術の範囲					模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
10	実技試験指導 下肢骨折					模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
11	実技試験指導 軟損					模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
12	実力模擬試験					模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
13	実力模擬試験					模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
14	実技指導 全般					模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	後期	担当教員 集中講座			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
柔道整復実技Ⅶ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 接骨院や整形外科での臨床経験がある柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要となる柔道整復術について実技授業を行う。グループによるロールプレイングを繰り返し行う形式で進める。									
〔到達目標〕 最終学年として、就職後に即戦力となれるよう必要な知識・技術を身につける。									
〔使用教材、参考文献等〕 ・柔道整復学・理論編 改訂7版 ・柔道整復学・実技編 改訂2版					〔準備学習・時間外学習〕 理論の教科書を事前に読み込み実技に臨むと理解が深まる。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	実技指導 全般				模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
2	実技指導 全般				模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
3	実技指導 全般				模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
4	実技指導 全般				模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
5	実技指導 全般				模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
6	実技指導 全般				模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
7	中間試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
8	実技指導 全般				模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
9	施術の範囲				模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
10	実技試験指導 上肢骨折				模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
11	実技試験指導 軟損				模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
12	実力模擬試験				模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
13	実力模擬試験				模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
14	実技指導 全般				模擬患者の評価から治療計画の作成、治療法の決定、実践まで適切に行えるようになる。				
15	期末試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	3	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数
柔道整復実技Ⅵ										15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
接骨院・整形外科での臨床現場と、大学で柔道整復師の育成のために教鞭をとり、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導、柔道整復師育成に尽力してきた柔道整復師専科教員が、全身の代表的な骨折における柔道整復術(整復・固定)について指導する。1・2年次に学習した各骨折を復習することによって、さらに骨折について理解を深める。										
〔到達目標〕										
各骨折に応じた治療を計画し、実践できるようになる。 各骨折に適した整復・固定を正しく安全に行うことができる。										
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕					
柔道整復学・理論編 第7版					事前に柔道整復学を予習し臨むこと。授業後必ず復習すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	骨盤骨骨折①					骨盤骨骨折における治療計画及び実践を習得する。				
2	骨盤骨骨折②					各部位の痛み、化膿性の炎症、褥瘡の類似症状について理解を深め判断力を身につける。				
3	大腿骨近位部骨折①					大腿骨近位部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
4	大腿骨近位部骨折②					大腿骨近位部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
5	大腿骨骨幹部骨折①					大腿骨骨幹部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
6	大腿骨骨幹部骨折②					大腿骨骨幹部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
7	膝蓋骨骨折					膝蓋骨における治療計画及び実践を習得する。				
8	下腿骨骨幹部骨折①					下腿骨骨幹部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
9	下腿骨骨幹部骨折②					下腿骨骨幹部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
10	下腿骨遠位部骨折①					下腿骨遠位部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
11	下腿骨遠位部骨折②					下腿骨遠位部骨折における治療計画及び実践を習得する。				
12	足根骨部の骨折					足根骨部の骨折における治療計画及び実践を習得する。				
13	足根骨の骨折					足根骨の骨折における治療計画及び実践を習得する。				
14	中足骨の骨折					中足骨の骨折における治療計画及び実践を習得する。				
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕					